

平成 29 年度座談会「町長と語ろうまちづくり」（共和のもりセンター）

開催日時	平成 29 年 11 月 17 日（金）午後 7 時から午後 9 時	天気 晴れ
場 所	共和のもりセンター	
町民参加者	男 16 人 女 6 人 （40 代以下 2 人、50 代 2 人、60 代以上 18 人）	
町出席者	町長、副町長、教育長、参事兼企画政策課長、総務防災課長、財務課長、参事兼農林課長、環境課長、都市整備課長、事務局 2 人	

出席者から出された主な意見や提案

《テーマ：有害鳥獣対策》

○先日、網を張ったが網を押し倒して鹿が入ってきて、白菜、ブロッコリー、カリフラワーの芽を食べられてしまった。そこで、網を張りなおして、さらにはその外側に鹿の脚が引っかかるようにマイト線を巻いた。秋冬に食べられる家庭菜園が被害に遭っている。果実について、2年前からブルーベリーを作っているが、鹿に食べられてしまった。対策として網を張り、ブルーベリーを植え替えた。その結果、今年は被害に遭っていない。春になったら被害に遭う可能性があり、極めて切実な問題であるのが現状である。防災との絡みがあるでしょうが、捕まえて駆除するのが1つの策であるし、長いスパンになるが鹿やイノシシが森で棲めるようにするのも必要である。地道にやっていくものと近々にやっていくものがある。個人的には、電気柵が一番効果がある。電気柵の補助は3/4あるが補助だけで良いのか、他の策はないのか、町がシカ柵を張ってくれたが、柵だけではなく、他の策を講じていただけるとありがたい。

○深沢地区にも柵をしていただいたのでありがたいが、地元で管理を任されてもだんだん高齢化していて若い人もいなくなってしまうと管理するのが非常に苦難である。

○個人で設置する場合は最高10万円とあるが、これからのシカ柵やイノシシ柵についての広域の整備を廃止し家庭菜園を守るために、10万円の補助額をあげて個人が自由に使えるような制度を拡充したほうが良いと思うので、行政も考えていただきたいので提案する。

○大野山に登る時に真正面に不老山が見えるが、頂上まで人工林を植えて20、30年が経過するが、800mの海拔がある山では、500mまでしか人工林を植えてはいけない制度を県が作らないと、あそこで生活していた動物の居場所がなくなり、人里まで下りて来なければならなくなる。そのような環境を人間が作ってしまったので、大きな原因の一つになってしまった。動物が生活できる場所を確保しておかなければ、こういう問題が起きる。

《テーマ：防災対策》

○台風22号の時は、変わった警報がでた。16時50分に注意喚起があり、17時30分に避難準備高齢者等避難開始と言う新しい警報があった。安心メールの中で気になる文面があったので読み上げると、避難に時間を要する方と言うことで、高齢の方、障害のある方、乳幼児を連れてくる方などとその支援者は共和集会所へ避難してください。支援者はとなっているが、4、5年前にそういう制度というか、要支援、支援の必要な人とそれを支援する人を町に届け出てくださいと、私が自治会長の時に、民生委員の方々と手続きをした記憶がある。安心メールに支援者と書いてあるので、その支援者は困ったであろうと思う。きちっとしたマニュアルなどがあるのかなと言う心配。大雨の時にこれから避難所に行っているのかと思わず、まず自分の家にいるのではないか。地震と大雨とでは災害だが大分違うと思う。また、行動パターンも違ってくるのではないか。そういう意味で、支援者に変な責任を負わせたらいけないということもあり、きちっとしたマニュアルなどが届いているのか心配になった。

○勘違いをする方が出てくるのではないか。支援と言うと、届け出をしている人の支援と受け止めてしまうので、その辺を分かりやすく勘違いしないような周知の仕方にしていただきたい。

○北九州で大きな災害が発生をした。テレビで見ると亡くなられた方が37名、行方不明者が6名いた。大きな災害で短時間に集中的に大雨が降った。あのような雨の降り方は毎年あるような気がする。いつ山北町で起きるか分からない気がするので、大きな問題と感じている。山が崩れるのは人の力で止めようがないが、人の命は避難すれば助かるのではないかと思う。町が作成した災害マップで私の地区を見ると、全て危険地域に入っている。実際に裏の山が崩れた時に、一番先にどこの家が危険かを細かく調べる必要があるのではないか。ぜひ、町と森林組合が協力して災害に強い町づくりをしていかななくてはいけないのではないか。この前ラジオを聞いていたら、林野庁が北九州の災害で川に流れたのは樹齢50年以上の木が半分以上であった。小さく若い木は流れた際に折れて小さくなるが、太い大きな木は長いまま流れて行き、人家近くまで流れそれが積み重なると本来水が流れる所を堰き止め、違う場所に水が流れるため大きな災害が発生する。林野庁は来年度予算を執り木が止まる砂防ダムを何箇所か造ると言っていた。私は正しい処置であると思う。人工林は災害に非常に弱いので、山北町でも家の裏に人工林がある所は、とにかく避難の対象に町が指定すべきである。

○防災無線のデジタル化についてだが、エリアワンセグ放送やケーブルテレビコミュニティFM等とあるが、どのようなイメージなのか。

○新規にデジタル化することによって可能になったのは、エリアワンセグだけであって、ケーブルテレビなどについては仮に導入しても可能であるとかはないのか。

○新しいものを導入した時に、地域の人が利用しやすいように、また町の安心メールに登録していない人もいる。受信したいが登録の仕方がわからない人もいる。いろいろなサービスを利用しやすいように環境を整えていただきたい。

○小田原市に西湘災害ボランティアネットワーク協議会があり、大きな災害の時にボランティアの団体を立ち上げる訓練を主にしている団体である。小田原市が神奈川県ボランティアネットワークと共に9都6県で災害のための訓練を小田原市の河川敷でおこなった時にも参加している。若い方をどのように取り込みながら災害に強い町を作っていくかの課題の中に情報の共有ということで、青少年を育成するにあたり、アマチュア無線の20名以上のグループが募集した時に集まれば青少年向けに講習会を8千円程度で受講できるグループを作りたい。大きな災害があれば、SNSやそういう情報に長けているのは青少年の子たちである。そういう助成制度や機会を設けて欲しい。

《テーマ：町政全般》

○共和のもりセンターまでの道で新東名の工事をしているが、道が狭いので真っ直ぐな道にしたい。

○以前にテレビを見ていたら小豆島がオリーブの島で昔からやってきている。そこで、子どもが産まれたらお祝いや転入時にオリーブの苗を渡すなど、町民みんなでオリーブを宣伝している。山北町でも何か考えた方が良くはないか。防災行政無線がデジタル化になるので、屋外スピーカーと戸別受信機の両方があると二重の音でうるさいので、どちらか選択できるようにして欲しい。

○消防団員の人数が不足している。他市町を見ると消防団の勧誘活動が盛んである。山北町では、のぼり旗やポスター程度の勧誘なので、もう少し町を挙げて取り組んで欲しい。

○各地区の集会所等の耐震が不安定な建物が多い、一般の住宅の方が頑丈なところが見受けられるので物資の保管を委託するようなことはできないのか。地域性にあった防災物資の保管をするに当たっての補助や援助を検討して欲しい。

○大野山を観光振興でどのようにするか地域として考えているが、山に行くと、ハイカーからハイキング道に草が凄く歩きにくいと言われた。山頂も草が凄いので、ハイキング道などの整備に力を入れて欲しい。